

エスペラントは心の国境を消すことばです

Organo de Hokkajda Esperanto-Ligo

Heroldo de HEL

N-ro 184

Julio 2019

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

[Enhavo/目次]

・表紙、Enhavo/目次	P. 1
・EPA 夏季合宿のお知らせ/後藤純子	P.2
・Raporto pri Fru-somera Kunloĝado de HEL 2019	P.3
2019 年 HEL 初夏合宿報告/後藤純子	
・初夏合宿・講師の感想文	P.7
・韓国のオニアさんからの電子メール/E-letero de s-ino	P.9
“Onia” el Koreio/横山裕之	
・La 9-a Azia-Oceanio Kongreso /Sawaya Yûiti	P.11
・阿部さんのこと/渡辺晋道	P.22
・(前号より続き) 例言/ Antaŭparolo/二葉亭四迷/	P.23
・Danke ricevitaj (星田淳扱い---読みたい方はご連絡ください)	P.25
・Protokolo de la 5a Komitata Kunsido de HEL/Kasjaro2019	P.26
/2019 年度第 4 回北海道エスペラント連盟委員会議事録	
・[編集後記/Redaktanto parolas]	P.28

はさみ込み資料：

” Heroldo de HEL ” 編集作業の引継ぎ案 (事務局長 立木ちはや)

EPA 夏季合宿のお知らせ

後藤純子

- 日 時：2019年8月23日（金）13時半受付～25日（日）13時迄
- 会 場：柴田内科循環器科研修センター（札幌市西区西野1条7丁目）
- 募集人数：20人（宿泊者の上限は、16人。個室無し）
- 参加費：1日につき500円（食費、宿泊費を除く。）EPA 会員は、全日程参加者に限り、参加費1,000円
- 共催：エスペラント普及会、EPA 苫小牧支部
- クラス：入門（後藤純子）、初級（奥脇俊臣）、中級（星田淳）、会話（Kim Seonwook-Suno）
- 申し込み：8月9日までに、住所、氏名、電話番号、学年（職業）、生年月日、希望クラスをEPAへご連絡下さい。
- エスペラント普及会（EPA）〒621-8686 京都府亀岡市天恩郷
TEL:0771-56-9074 FAX:0771-25-0061
E-mail:officejo@epa.jp
- 会話クラスの講師は、5年前の北海道大会で講演して下さった韓国の青年、Suno さんです。とても分かり易いエスペラントで、大好評でした。

Raporto pri Fru-somera Kunloĝado de HEL 2019

2019 年 HEL 初夏合宿報告

後藤純子

○日時：6月29日（土）13：00～30日（日）12：30

○会場：柴田内科循環器科研修センター（西区西野1条7丁目）

○参加人数：16名（HEL 会員10名、会員外6名）

○クラス別指導者と人数

- ・ 入門（講師：川谷維摩）→2人
- ・ 初級（講師：後藤純子）→1人
- ・ 中級（講師：星田淳）→6人
- ・ 会話（講師：宮沢直人）→3人

○ゲームと歌

- ・ 1日目：学習後、全員で恒例になっているリレー会話（Paraj babiloj）を楽しんだ。
- ・ 2日目：解散の前にカロチャイの名訳、ベートーベンの第九「合唱」を星田さんの指導で全員合唱した。（勿論、エスペラントで。）

○今回の初夏合宿について

例年通り、5月から、チラシを作り、「かでる」や「エルブザ」に置いてもらったが、残念ながら、効果は、なかった。また、道新の「さっぽろ10区」にも掲載されたが、応募者は、なかった。北大祭では、例年、古本市で、エスペラント研究会の学生さん達が、この講習会のチラシを配って下さるのだが、今年は、希望した古本市が、抽選で当たらなくて出店が出来なかったとか。それでも、大学内にチラシを配架してもらって、効果があった。

(感謝)。40年ぶりに合宿に参加して下さった方がおられて、
我々としても、嬉しかった。これからも、続けて欲しい！

(後藤純子)

○参加者のひと言感想 (順不同)

☆ 丸っきり、初めてのエスペラント語で、アルファベットの
読み方から始まり、様々な文法を学んだのだが、やってみれ
ば、覚えやすく、楽しかった。

語彙は、ラテン語由来の物が多いのか、英語や第二外国語
で勉強中のドイツ語のものと似ていて、そのような類似点の
発見や類推も学ぶ楽しさにつながった。

今後も勉強していくかどうかは、今の時点では、何とも言
えないが、この二日間は、とても貴重な経験になったことは
確かである。

(入門-小林凌雅)

☆ 充実した研修会で、とても満足しました。こんなにも素晴
らしい会に、もっと多くの方が、参加できないものかと、常々
思っております。今後とも、会員相互の親睦を計りながら、
会の発展が叶うように努力して行きたいと、思っています。

(初級-宮越葉子)

☆ 40年(近い?)ぶりの合宿参加で、頭もリフレッシュで
きたようです。

10月の日本大会に参加するので、より会話力をつけよう
と思います。

講師、運営の皆さん、ありがとうございました。

Koran dankon! Ĝis revido!

(中級-佐藤忠利)

☆ 令和の第一回初夏学習会は、今迄と少し趣が変わって、ベートーベンの交響曲第9番を学び、歌い、考える、そして聴いた。歌が最も不得手な私としては、戸惑うことが多かったが、多分、エスペラントの学習会でこんな手法は、かつてなかったでしょうから、興味深いものがありました。講師を務めたほし星田さんは、ことコーラスにかけては、第一人者だから、題材、進行、まとめは、舌を巻く指導ぶりでした。とても充実した2日間でした。ありがとうございました。

(中級-後藤義治)

☆ 初めて2日間、参加させていただき、第九の合唱のエスペラント訳を勉強させていただきました。今まで何回も聴いていた合唱の意味を知り、カロチャイの訳詩のすばらしさ、脚韻なども、改めて鳥肌の立つ思いで、CDを聴きました。難しかったです、とても、心踊る時間を過ごさせていただきました。また、来年も楽しみにしています。

Mi elkore dankas s-ron Hoŝida kaj Hel-anojn. !

(中級-留目昌子)

☆ 宮澤さんがGvidantoの会話クラス、私には新鮮で愉快でした。絵を見て話すのは、割に容易だし、発想の訓練にもなったと思います。思った事をエスペラントで表現するのは、やはり大変です。繰り返しによる慣れが必要と思いました。

(会話-白濱晴久)

☆ エスペラントをエスペラントで説明するのは、大事な事と感じました。絵を見ながら想像力を使って、単語を思い出さなくても簡単な単語を合成して説明する事ができました。会

話をするには、相手に伝えようとする努力が必要で、難しい単語を無理して思い出そうとするより、簡単な単語を合成して伝えようとすれば、伝わる事がわかると思います。

(会話-横山裕之)

- ☆ ベートーベンの第九合唱を esperantigi する教室。星田さんの優しい説明で興味がだんだん強くなってきた。音痴と言われている私でも、歌えるかもしれないと思うと、日曜日、お休みしたのが残念です。

(中級-山岸悦子)

- ☆ 私の楽しみしていた柴田医院での合宿でした。突然、事情があり、会話クラスの講師の川合さんが参加出来ないと聞いて、とても残念でしたが、代替りの講師が与えられました。でも、私は、代替りの講師、宮沢さんとは、お話をした事もなく、不安でしたが、素敵な教材を用意して、それぞれのレベルにおいて、思う事をしゃべれるエスペラント会話の楽しさを私にも味わわせて下さり、宮沢さんに心から感謝します。(会話-柳 幸三郎)

- ☆ 「ベートーベン 交響曲第 9 番 終末合唱 歓喜の歌」のエスペラント訳を星田先生に教えて頂きました。まず、ドイツ語からエスペラント語への直訳を読み、次にハンガリーの詩人 Kolomano Kalocsay によるエス訳を読みました。Kolomano Kalocsay の訳は、直訳の意味を保ちながらも、ドイツ語原文に倣って母音の 数と脚韻を合わせていて、音とリズムが美しい事に驚きました。辞書を使ってなんとか普通の文章を読んでいる私ですが、星田先生 の解説のお蔭で詩の奥深さに触れる事が出来、楽しかったです。Mi elkore dankas al la organizantoj. (中級・柴田智美)

初夏合宿・講師の感想文

☆ 入門クラス・・・・川谷維摩

この2日間、入門講座の講師役をやりましたが、特に中学生を教えるのには、苦勞しました。

北大エス研で教える時は、新入生でも、英語の知識があるので、英語の～にあたる表現だと言えば、分かって貰えるので苦勞しませんが、中学生は、まだ英語も習っている途中で、そのような教え方が出来ません。

中立言語を教えるのに、英語に頼るような教え方をするのは、良くないな！と、思いました。これからは、西欧語の知識を全く仮定しない教え方を考えたいと、思いました。

あと、みんなで歌うのは、楽しかったです。Dankegon!

☆ 初級クラス・・・・後藤純子

今、とても後悔していることがあります。それは、このクラスの宮越さんを第九をテーマにして教えられた星田さんのクラスに決めるべきだった事です。何故なら、彼女は、この3月に「第九を歌う会」でウイーンに行って来られたのでした。きっと、中級クラスでお勉強したいお気持ちだったでしょうに、配慮が出来なくてごめんなさい！（それから、入門クラスに中学生が入った事も、川谷さんの文章で初めて知りました。私の方には彼女は、中級と知らされていました。）

このクラスで取り組んだ事は、○文法（前置詞、定冠詞、動詞の不定形、命令形等をプリントで。）○会話（私のフィンランド体験について話し乍ら。）○読み（SESのinformiloから。）○ボーイスカウトの世界ジャンボリーで使ったテキストで復習をざっと。雑談も楽しみながら有意義な時間でした。

☆中級クラス・・・・星田淳

準備したプリントはふたつ。

ひとつは発音練習。みなさん立派な発音でした。

もうひとつはベートーヴェン 交響曲第九番 終末合唱

歓喜の歌の 原語（ドイツ語:Friedrich Schiller） —

エスペラント (Kolomano Kalocsay) —エスペラント直訳（星田・Manfred: もとの詩の意味を原文(詩) に出来るだけ忠実に訳してみたもの、ドイツの S-ro Manfred Westermayer の意見も加わっています)の 三つのテキストを比べて「詩の訳しかた」を Esp-ujo 最高の詩人 Kalocsay(kaloĉaj と読む)の tekniko から学びました。

ヨーロッパの定型詩では各行(verso)の母音の数、リズムを合わせたうえ 行の終わりの音をほかの行の終わりと対応させる(脚韻を踏む)工夫もしています。この詩でその工夫も確認できました。最後にほかのクラス(入門、初級、会話)の人も加わって、この歌詞(Kalocsay 訳)の読み方練習。留目さんからこの交響楽の録音 CD を貸していただいたので、4 楽章の合唱の部分聞き、Kalocsay 訳の歌詞を全員で歌いました。

☆会話クラス・・・・・・宮沢直人

今は絶版となってしまったイギリスで出版された小冊子「LIZA kaj PAŬLO」を音声教材と共に使いました。話の筋や挿絵に関して討論しながら進めていき、参加者はエスペラントの辞書かスマホでエスペラント辞書アプリを使いながら話しました。そして、事実を的確に説明したり、自分の考えや感じ方を表明したり、相手にわかりやすく質問するなどのことに挑戦し、宮沢も参加者のみなさんと一緒に試行錯誤しながら進めていきました。挿絵のたくさんあるテキストを使って、様々な会話に挑戦することも面白い学習法だと感じました。

韓国のオニアさんからの電子メール E-letero de s-ino "Onia" el Koreio

横山裕之

JOKOJAMA Hirojiki (YOKOYAMA Hiroyuki)

以前に来札した韓国のオニアさんから電子メールがきました。

La koreino "Onia", kiu iam venis al Sapporo, sendis al mi e-leteron.

みなさんにその内容をお知らせします。札幌も含んだ新しい日本旅行記の本を出すようです。

Mi informas HEL-anojn pri la enhavo. Ŝi eldonos novan libron pri sia japana vojaĝo inkluziva de la urbo Sapporo.

Kara s-ro Hiroyuki. Kiel vi fartas? Mi estas Onia el Koreio.

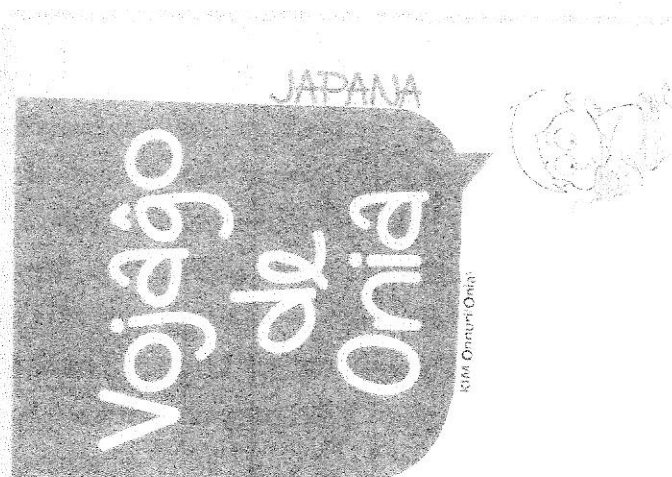
親愛なる裕之さん。お元気ですか？韓国のオニアです。

Fine la libro 'Vojaĝo de Onia en Japanio' estas realiĝanta. Estas libro rilata al miaj lastaj vojaĝoj en Japanio. Verŝajne baldaŭ ĝi eldoniĝos.

まもなく「オニアの日本旅行」という本ができます。日本での私の最新の旅行に関する本です。近いうちに発行されるでしょう。

Kiel verkisto mi ĝojas kaj dankas al vi kiu prizorgis kaj helpis min en urbo Sapporo. Danke al vi mi renkontis junulojn de Sapporo kaj povis ĉeesti en kunsido de SES. Koran dankon!

作家として本を発行できたことを私は喜んでおり、札幌の街で世話をしてくれて、私を助けてくれたあなたに感謝します。また、札幌で若い人たちに会って、SES（札幌エスペラント会）の例会に出席できたことも感謝します。ありがとうございました。



2017, 6, 25

Sapporo

Vespere, al hejmo de s-ro Naoto, s-ro Yokoyama kiu bonkore pri zorgis mian itineron en Sapporo kaj junaj esperantistoj de Sapporo venis por kune ĝui festeton de 'Ŝabu Ŝabu'. Bonkoraj junuloj estis preskaŭ samaĝaj kun mi kaj aminde iom hontemaj. S-ro Naoto senfine regalis nin per viandaĵo kaj brasiko por Ŝabu Ŝabu'. Estis mirinde, ke ĉi tiaj simplaĵoj faras ĉi tian bongustegan supon. Ni ĉiuj vikle bablilis pri ordinaraĵoj kiel vetero aŭ televido-programoj (Dankon al ĉiuj, kiuj klopodis uzi nur Esperanton por mi) manĝante kaj drinkante. Homoj ofte demandis al mi, kio estis la plej ŝatata parto de vojaĝo.

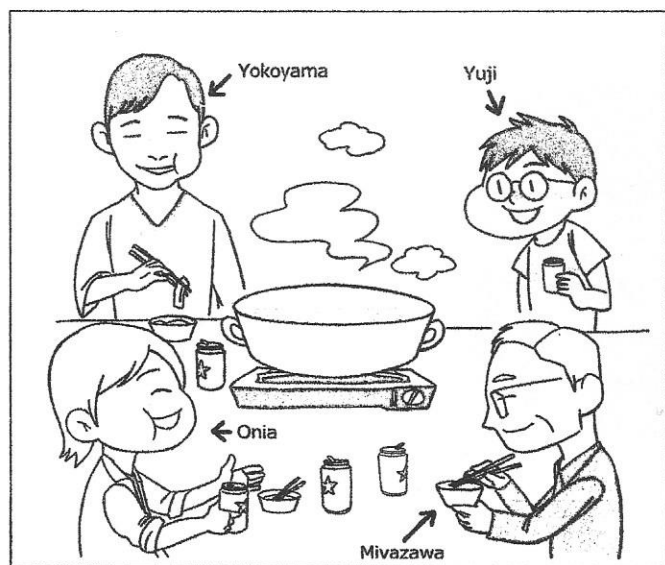
2017年6月25日

札幌

夕方に、直人さんの家で、親切にも札幌での私の行程の面倒を見てくれた横山さんと札幌の若いエスぺランチストが「しゃぶしゃぶ」パーティを一緒に楽しむためにやってきました。親切な若者は、私と年が同じくらいで、ちょっと内気で可愛かったです。直人さんは、際限なく、肉とキャベツをしゃぶしゃぶのために振る舞ってくれました。このような簡単なものからこのようなおいしいスープができることは驚きです。我々はみんな、飲み食いをしながら、天気やテレビ番組のような普通の話について活発におしゃべりしました。(私のためにエスぺラントだけを使うことに尽力したすべての人に感謝します。) この旅行で一番よかった(高く評価する)ことは何だったかと私はよく質問されます。

Mi povas respondi ke varmeta konatiĝo kun novaj amikoj donacis plej multan feliĉon al mi dum mia vojaĝo. Nun mia ĉi foja vojaĝo estas pli kaj pli finiĝanta. vojaĝo.

私は、新しい友人たちとほんのり暖かい感じで知り合いになることが、旅の中で最も多くの幸せを与えてくれると答えています。現在、私の今回の旅がだんだん終わりになりつつあります。今日のしゃぶしゃぶパーティに感謝しながら、旅の最終場面で心地よい記憶ができました。



MIAJ RAPORTO kaj IMPRESO

pri

La 9-a Azia-Oceanio Kongreso de Esperanto en Danang, Vjetnamio,
de la 25-a ĝis la 28-a de aprilo 2019 kun la kongresa temo "Esperanto
kaj Kultura diverseco de Azio kaj Oceanio"

Sawaya Yûiti

Por la unua fojo mi partoprenis en la Azia Kongreso de Esperanto, kvankam ĝi jam okazis 8 fojojn en ĉiu tria jaro ekde 1996, ĉar mi ne povis havi liberan tempon pro diversaj aferoj. Laŭ mia memoro la Azia Kongreso (nun Azia-Oceania Kongreso) oficiale naskiĝis post la 5a Pacifika Kongreso de Esperanto en Qingdao, Ĉinio, en 1992.

En la 9a Kongreso en Danang, bela havenurbo kun belaj plaĝoj, partoprenis entute 281 esperantistoj el 22 landoj. Krom la kongreslando Vjetnamio (87) plej multe da partoprenantoj venis el Koreio (74), due el Japanio (47) kaj trie el Ĉinio (40), kvare el Indonezio (7) kaj kvine el Nepalo (4). Rimarkindas, ke en la lasta kongrestago aperis 4 filipinaj junuloj, kiuj partoprenos en la 37a Komuna Seminario de la 4-landaj junularoj (Ĉinio, Koeio, Japanio kaj Vjetnamio) tuj post la 9a AOK en Danang. En la kongreso partoprenis esperantistoj ankaŭ el Australio, Brazilo, Barato, Hispanio, Hungario, Israelo, Kongo, Mongolio, Rusio, Pollando, Singapuro, Tajlando, Tajvano (Ĉinio) kaj Turkio. En la kongreso ne mankis partoprenantoj el Eŭropo. Kelkaj el ili diris, ke ili havis rilaton kun vjetnamoj, kiam ili estis junaj kaj ili ekhavis intereson pri Vjetnamio. Dum la vjtnama milito tiama registaro de Nord-Vjetnamio sendis multajn laboristojn kaj studentojn al tiamaj socialismaj landoj por akiri fremdlandajn devizojn kaj por konstruo de la lando post la milito.

En la urbo Danang abundis turistoj ne nur el Ĉinio, sed ankaŭ

el Koreio. En bazaroj, vendejoj kaj mangejoj oni ofte alvokis min en la korea lingvo. Multaj ŝildoj en publikaj lokoj estas skribitaj en la kvar lingvoj: la vjetnama, angla, ĉina kaj korea, sed ne en la japana. Tio montras la nunan staton de forta ekonomia ligiĝo de la urbo kun Ĉinio kaj Koreio. Mi rimarkis, ke tiun fakton supegulas la nombro 74 de la partoprenantoj el Koreio en la 9a AOK kaj mi sentas energion de la korea movado.

La kongreso enhavis riĉajn programerojn kiel malgranda UK inkluzive de urba akcepto, nacia vespero, internacia vespero, ekskursita tago, antaŭ- dum- kaj post-kongresaj ekskursoj, ktp.

<La unua surpizo --- invito al la urba bankedo>

Akceptado de kongresanoj komenciĝis en la halo de kongresejo en la 25a de aprilo. Posttagmeze post antaŭkongresa ekskurso al la monteto Ba Nan mi iris tien por registri min kaj preni kongreslibron k.c.. Ĉe la akceptotablo estis s-ino Duong Tu Kieu kiel LKK-ano kaj post kontrolo ŝi transdonis al mi koverton kun invitilo al la "urba akcepto", dirante, ke mi venu ĉi tien 10 minutojn antaŭ la indikita horo, ĉar ŝi kondukos min al la bankedejo. En UK kaj aliaj internaciaj Esperanto-renkontiĝoj "urba akcepto" estas nur por invititoj, t.e. gravuloj por la okazigo de la evento aŭ kongreso kaj por reprezentantoj de Esperanto-organizoj ktp, sed neniam por simplaj partoprenantoj. Mi suspektis, ke du tri miaj konatoj el la LKK-anoj povus konspire enmiksi min en la liston de invititoj. Ankoraŭ restis iom da tempo ĝis la urba akcepto, do mi iris al mia hotelo proksime al la kongresejo por ripozi. Kiam mi atingis la enirejon de la urba akcepto, respondeculo de la akceptejo postulis de mi transdoni al li la invitilon, en kiu estis skribita: "Okaze de la 9a Azia-Oceania Kongreso de Esperanto organizata en la urbo Da Nang la Popola Komitato de Urbo Da Nang respektive invitas Sawaya Yūiti ĉeesti la Urban Akcepton". Tiam mi rimarkis,

ke mi lasis ĝin en mia hotelĉambro! Ĉiam okazas neatendita okazaĵo! Feliĉe la respondeculo notis mian kongresnumeron kaj permesis min eniri en la akceptejon.

Certe ĉe la sama tablo estis famaj aktivuloj ges-roj Tahira kaj s-ro Usui Hiroyuki, s-ro Ho Song, ktp. La urba akcepto estis treege luksa: bongustaj pladoj kaj bonkvalita vino. Tio bone kontentigis mian stomakon. Sed estis ne nur tio. Profesiaj dancistoj kaj kantistoj prezentis kantojn kaj dancojn sur la scenejo. Vere luksa bankedo!

<Inaŭguro>

En la solena inaŭguro Vjetnama Unio de Amikecaj Organizoj (VUAO) --- VUAO havas rolon kiel grava ministerio pri popola diplomatia agado en Vjetnamio kaj Vjetnama Esperanto-Asocio (VEA) aliĝis al ĝi kiel membro-organizo --- transdonis Memormedalojn pri "Paco kaj Amikeco inter Popoloj" al eksterlandanoj kaj vjetnamoj, kiuj kontribuis multe por Esperanto-movado en Vjetnamio. La fremdaj esperantistoj, kiuj ricevis medalojn, estis: s-ro Lee Jungkee -estrarano de UEA, s-ro So Jinsu - prezidanto de KAEM, s-ro Inumaru Fumio - vicprezidanto de KAEM, s-inoj Doi Ĉieko, Saitô Tume kaj Syôzi Keiko. En la saluto VUAO menciis la du esperantistojn, s-inon Alice Herz (Usono) kaj s-ron Jui Cuunosin (Japanio), kiuj sin bruligis en 1965 kaj en 1967 respektive por protesti kontraŭ la agresa milito fare de Usono en Vjetnamio. Atenton de la ceestantoj tiris 3 entuziasmaj esperantistoj vestantaj en verdaj jako kaj pantalono el la provinco Hunan, Cinio.

<Prelegoj>

Mi aŭskultis 4 prelegojn: "Vjetnamio --- lando, popolo kaj kulturo" (s-ro Nguyen van Loi), "Lingva diverseco kaj rimedo: Raporto de universitato de Barato" (videoprelego, s-ro A. Giridhar RAO), "Orientaj filozofioj per okuloj de occidentano" (s-ro Maciej St. Zieba),

"La ŝlosilo por mastri iujn orient-aziajn lingvojn" (s-ro Jack Halpern). Krome paralele okazis la prelego "Vivi en Ĉinio kiel fremdlanda esperantisto" (s-ro BAK Giwan). La prelego de s-ro Jack Halpern traktis la lastatempe eldonitan vortaron "KANĴI-VORTARO POR LERNANTOJ (Esperanta Eldono). Ĝi tre utilas ankaŭ al japanaj esperantistoj en ellernado de Esperanto.

<Fakaj Kunsidoj>

1) Esperanto-Movado en Azio kaj Oceanio

Mi partoprenis en "Esperanto-Movado en Azio kaj Oceanio" organizita de KAEM dum du tagoj. Nuna movado en ĉiu azia lando estis raportita de la estrarano de KAEM aŭ rekte reprezentanto de la landa movado. Situacioj, donitaj kondiĉoj kaj la formoj de Esperanto-movado estas diverdaj laŭ ĉiu lando. En Filipino Indonezio, Tajlando kaj Singapuro ĉefrolas junuloj aŭ studentoj. En Filipino Esperanto-Societo de la Universitato de Filipinoj estis fondita en 2018 kaj en la universitato Esperanto-movado aktive disvolviĝis inter studentoj. Publikiĝis elsendo de esperantolingvaj podkasto

(<http://soundcloud.com/up-esperas>).

Vi povas vidi iliajn agadojn kun fotoj en la fejsbuka paĝo:
<http://facebook.com/UPEspras>

Min impresis junuloj kaj studentoj el Filipino, Indonezio kaj Singapuro, kie vigliĝis Esperanto-movado lastatempe. Mi havis ŝancojn rekte interparoli kun kelkaj el ili. Ili ĉiuj tre flue parolas Esperanton, kvankam ili eklernis Esperanton antaŭ unu aŭ du jaroj. Poste mi diris al s-ino Ilia Sumilfia Dewi, la motoro de la movado en Indonezio, ke mi interparolis unuafoje kun indonezia studentino. Ŝi estis gvidanto de studenta grupo. S-ino Ilia Sumilfi Dewi respondis al mi, ke ŝi ne intervenas en la movadon de la junulara grupo. Junuloj organizu junulojn mem. Certe tio estas la

plej efika rimedo en ĉiuj organizoj.

Korea Esperanto-Asocio (KEA) havis la duan komunan Esperanto-kongreson kun JEI en Nara en la lasta oktobro kaj okazigos la 3an komunan kongreson en Koreio en 2023. En marto okazis la 28a Internacia Kurskunveno de Esperanto en la urbo Choengdo per la nomo 'Esperanta Vilaĝo' kun 128 partoprenantoj. La kunvenon okzigris du orgnizoj: Seula Esperanto-Kulturcentro (SEK) kaj Esperanto-Popularig Asocio (EPA, Japanio). Eldona agado: du bildlibroj, du lernolibroj el la japana lingvo kaj romanon de Julian Modest elesperantigris 22 lernantoj de SEK. Mia amiko Kara An (An Jongsoo) diris al mi, ke la korea Esperanto-movado konsistas el diverdaj tavoloj kaj sekve estas ne-monotona: estas diversaj grupoj kun diversaj agadoj. Lastatempe post iom da sia foresto en Seulo pro laboro li vidas novulojn, kiujn li neniam renkontis antaŭe, li diris.

Nepala Esperanto-Asocio sukcesis havi sian novan oficejon kaj organizis Internacian Himaraja Renkontiĝon dum longaj jaroj (ĉi-jare la 13an) kaj okazigos la 5a Sud-Azia Seminarion kaj la 4an Specialan Renkontiĝon en oktobro 2019.

S-ino Chen Li-ru raportis la movadon en Tajvano. Tajvanaj esperantistoj troviĝas en la suda regiono Pingdong kaj en la urbo Kaoshung. En du superaj mezlernejoj okazas Esperanto-kurso kaj lernas Esperanton 22 kaj ĉ. 30 lernantoj respektive. Problemo estas, ke ili malaperas el la lernejo post la lerneja kursfiniĝo ĉiujare kaj denove oni devas instrui Esperanton al novaj lernantoj en nova lernojaro, diris s-ino Chen. La loka Esperanto-gazeto "Formoza Forio" eldoniĝas unufoje en jaro. Monata kunveno, Zamenhofa Festo kaj Esperanta Festivalo de Tajvana Literaturo estas okazigataj. Troviĝas aktiva movado en fejsbuko ('Tajvana Esperantujo 台灣世界語生活圈':

<https://esperanto.typeit.org/>)

Kelkaj aktivaj eksterlandaj esperantistoj loĝas en Tajvano.

Vjetnama Esperanto-Asocio (VEA) okazigas sian kongreson en ĉiu kvina jaro kiel ĉiuj vjetnamaj ŝtataj asocioj. VEA okazigas la 6an kongreson en decembro por la oficperiodo 2018-2023. Vjetnama Esperantista Junulara Orgnizo (VEJO) havis la 6an kongreson en aprilo 2018. Okazigoj de diversaj internaciaj Esperanto-eventoj inkluzive de la 9a Azia-Oceania Kongreso (AOK) multe kreskigis la movadon en Vjetnamio. En la urbo Hochiminh retpaĝo por novaj lernantoj bone funkcias. En Hanojo refloras la movado: multaj interesaj novaj agadoj kun abunda programo tiris multajn interesojn ekster Esperantujo: la unua Kant-Danc-Festivalo kun la temo bonveniganta la 9an AOK-n, Zamenhofa Tago, Printempa Renkontiĝo, novaj kursoj ktp. En la eldona kampo aperis 2 gravaj libroj: "Vortaro de Proverbaro en 4 lingvoj (Esperanto- angla-franca-vjetnama) kaj "Vjetnma Antologio" (14.5x20.5 cm, 386p). En la faka kunsido leviĝi demando: 'Kial estas tiel multaj virinoj kompare kun viroj en la vjetnama Esperantujo?' S-ino Tran Hoan respondis: 'Probable tio spegulas la flankon, ke ekzemple kiam oni alvokis studentojn lernantajn fremdajn lingvojn lerni Esperanton por esti helpantoj de internacia Esperanto-renkontiĝo, ekzemple UK aŭ AK, tiam fakte multe pli multe da studentinoj estis en la klasoj de fremdaj lingvoj ol viraj studentoj, sekve naskiĝis multe pli da virinaj esperantistoj; vere ĉirkaŭ ŝi mem estis multe pli multe da studentinoj ol viraj studentoj en la anglingva departemento de universitato, kiam oni varbis helpantojn inter studentoj lernantaj fremdajn lingvojn por la Hanoja UK en 2012. (Poste mi demandis studenton-helpanton de ĉi tiu kongreso, lernantan la korean lingvon en la universitto Danang, "Kiom da viraj studentoj estas en via fako?" Si respondis al mi, "Nur 4 viraj studentoj el 80 studentoj." Plene solviĝis la longjara enigmo!)

S-ino Tran Hoan jam estas unu el reprezentaj aktivuloj en la

vjetnama Esperanto-movado 7 jarojn post la 97a UK en Hanojo en 2012 kaj ŝi estas la prezidanto de TEJO. Mi rimarkis, ke kelkaj LKK-anoj laborantaj por la 9a AOK estis helpantoj de la 97a UK.

2) Ĉina Tago

Ĉina Esperanto-Ligo (ĈEL) kaj la redakcio de la reta gazeto *El Popola Ĉinio* prezentis la ĉinan movadon dum 2017-2019. Aparte notindas, ke la Esperanta fako de Zaozhuang-a Universitato oficiale akceptis 25 studentojn de 4-jara regula kurso de 2018 kaj Esperanto-Muzeo de la universitato havis sian 5-jaran jubileon de la fondiĝo en decembro 2018. En januaro 2018 okazis la 12-a Ĉina Kongreso de Esperanto en la urbo Changsha de la provinco Hunan kun pli ol 140 esperantistoj. En la faka kusido la ĉina delegacio donis premion pri amikeco al esperantistoj, kiuj faris elstaran kontribuon en antaŭenigo de kulturaj interŝanĝoj inter Ĉinio kaj aliaj landoj. Inter la premiitoj estis s-ro Usui Hiroyuki, membro de Akademio de Esperanto kaj eksredakciano de la reta gazeto *El Popola Ĉinio*. Antaŭ la faka kunsido "Ĉina Tago" okazis prelego de pola esperatisto pri "Orientaj filozofioj per okcidentano" en la sama ĉambro kaj mi aŭskultis la prelegon. La elokventa prelego daŭris pli longe ol la fiksitan tempon, kio prokrastigis la sekvantan fakan kunsidon "Ĉina Tago". S-ro Usui rimarkis min en la ĉambro kaj venis al mi kun urĝa peto, ke mi estu lia anstataŭanto en la ceremonio por premiado, ĉar plilongiĝo de la filozofia prelego ne ebligis lin mem ĉeesti la ceremonion: jam estas tempo, ke li devas gvidi alian fakan kunsidon por komencantoj "Paroliga Kurso de Esperanto (1)" samtempe paralele okazigata en alia ĉambro. Sekve tute ne atendite min trafis la rolo de la anstataŭanto en la ceremonio kaj mi devis eĉ fari mallongan klarigon kaj saluton anstataŭ li! En la lasta jaro s-ro Usui ekŝiĝis de redakciisto de EPĈ kaj revenis al Japanio por akiri kvalifikitan licencon de instruisto pri la japana lingvo por eksterlandanoj. Li nun intencas

esti 'vagabonda instruisto de Esperanto' kaj li trejnigis helpantojn-studentojn de la 9a AOK en Esperanto dum monato antaŭ la AOK en Danang.

La aliaj fakaj kunsidoj paralele okazigitaj estis: "Oomoto" (Okuuaki Tosiomi), "Uomblismo" (Oh Soonmo), "IKEF" [en la 2a de aprilo]; "Cambro de Hori Jasuo", "Ni desegnu portreton de Zamenhof" (Ho Song) [en la 27a tago].

<Paroliga Kurso de Esperanto (2)>

Mi spektis la kurson de s-ro Usui por komencantoj. Li tre lerte kaj amuze gvidis la kursanojn per diversaj manieroj. Min aparte impresis 'lango-rompigaj frazoj' en Esperanto. Ekzemple: 'Ne ploru plorulo pro propra plezulo'; 'Saĝe ĉasanta ĉasisto saĝe ĉasas eĉ sen sia ĉashundo'. Ĉu vi povas diri la frazojn kiel eble plej rapide en ĝustaj prononcoj? Mi filmis la tutan kurson per videokamerao.

<GAJAJ VESPEROJ>

1) Kultura kaj Interkona Vespero (en la unua vespero (la 25an de aprilo))

La programo komenciĝis per 30-minuta interparolo inter vjetnamoj kaj eksterlandanoj, ĉar pli ol 40% de la kongresanoj estis vjetnamoj kaj ili havis malofte da ŝancoj interparoli kun eksterlandaj esperantistoj. Oni faris parojn de vjetnamoj kaj eksterlandano sidantaj vid-al-vide kaj ili daŭrigas interparolon dum 2 aŭ 3 minutoj kaj oni ŝanĝis partnerojn kaj rekomencis interparolon kun nova partnero kaj tio ripetiĝis. La maniero estis sama kiel ni havis ofte en "intenisva staĝo ('kunloĝado') en 1970aj jaroj. Kreiĝis tre bona amika etoso.

2) Nacia Vespero (en la 26a de aprilo)

Kongresanoj veturis de la kongresejo al mezgranda teatro en la centro de la urbo per buso. Profesiaj danc-grupoj kaj kantistoj en la

urbo Danang prezentis tradiciajn dancojn kaj kantojn. Tre luksa programo aranĝita de la urbo Danang (Dananga Unio de Amikecaj Organizoj / DUAO), t.e. la nacia vespero estis finance subtenata de la vjetnama ŝtato. Ĉiuj prezentaĵoj plene kontentigis okulojn kaj orelojn de la kongresanoj.

3) Interncia Vespero (en la 27a de aprilo)

Estas kutimo de Interncia Vespero en internaciaj Esperanto-renkontiĝoj, ke partoprenantoj mem faru prezentaĵojn. Multaj azianoj facile kaj nature prezentis popoldancojn kaj kantojn kun danco de sia lando grupe aŭ idnividue, ĉar tiuj kantoj kaj dancoj radikiĝas en ilia ĉiutaga vivo. Sed por ni japanoj tio estas ne facila afero: ni jam delonge perdis tian kutimon en moderna tre (tro?) komforta vivo kun komercismo kaj oportuneco. (Nur okinavanoj tenas tian tradicion kanti, muziki kaj danci en sia ĉiutaga vivo.) En la interncia vespero en Danang, s-ro Hori Jasuo instigis ĉiujn japanajn kongresanojn kanti la faman kanton 'Hejmloko (*Hurusato*)' per la akompano de sia nazfluto. Tio spegulas unu fazon de la nuna japana Esperanto-movado. Laŭdindas kaj notindas, ke ses ĉinaj studentoj de Zaozhuang-a Universitato per siaj tutaj fortoj ludis filozofian kaj historian dramon pri la ĉina antikva filozofo Mozio (墨子 ĉ.480 a.K.- ĉ. 390 a.K), kiu per siaj elokventeco kaj filozofio sukcesis persvadi la reĝon de la granda kaj potenca regno Ĉu, ke li rezignu intencon invadi la malgrandan malriĉan regnon Song. Tio estis tre interesa filozofia dramo pri paco kaj milito.

Por mia surprizo, plejlaste aperis 'ĉefludisto' de la interncia vespero: ĉiujn spektantojn ravis kaj korojn rabis la kanto de s-ro Kawamoto Hiromi, la nova redaktoro de la bulteno de KAOEM, per sia bela baritona voĉo. Li kantis la faman poemon de Zamenhof 'La Vojo' sen akompano de muzikilo. Nova talentulo debutis (?) el la japana Esperntujo.

<Memoriga arbo-plantado> en la 27a de aprilo

Instancoj de la kongresa urbo kaj Vjetnama Unio de Amikecaj Organizoj (VUAO) havigis al la kongresanoj arbo-plantadon ĉe la Junulara Parko de la urbo Danang, memore al la 9-a AOK. Por simboli la 5 kontinentojn, 5 arboj estis plantitaj kun la nomo "Zamenhof-Arbo" kaj ili fariĝis la 5-a ZEO (Zamenhof-Esperanto-Objekto) en Vjetnamio.

<Urba Ekskurso>

Post la memoriga plantado de la arboj ni vizitis la Muzeon de Ĉam-skulptaĵoj en la urbo Danang, kie multaj skulptaĵoj el la ruinoj My Son (la 8a-13a jarcentoj, monda heredaĵo) estas elmontritaj. Posttagmeze ni vizitis la pagodon Linh Ung.

<Nova estraro de KAOEM kaj la kongreslando de la venonta AOK>

En la ferma ceremonio de la kongreso nova estraro de KAOEM estis publikigita:

s-ro Nisinaga Atusi, japana, kiel prezidanto,

s-ino Nguyen Thi Phuong Mai el Vjetnamio kiel vicprezidanto,

s-ino Oh Soonmo el Koreio kiel sekretario,

s-ino Ilia Sumilfia Dewi el Indonezio kiel vicsekretario.

Krom la prezidanto ĉiuj estraranoj estas virinaj aktivuloj jam internacie konataj. Kaj la 10a AOK okazos en Koreio en 2022.

<Avantaĝo kaj malavantaĝo de Esperanto-movado en socialisma lando>

Danke al la subteno kaj aŭspicio de VUAO kaj la urbo Danang kaj danke al la plena klopodo de VEA, ni povis fini la 9an AOK-on en granda sukceso kun riĉaj kaj luksaj enhavoj kaj kun varma

gastamo de vjetnmoj.

Laŭdire kutime en UK, ekzemple, urba akcepto estas tre simpla sen bankedo. Ĉi-foje ne nur la urbo Danang, sed ankaŭ VUAO havis luksan akcepton, t.e. duoble pli multe da kongresanoj povis ĝui la akcepton ol kutime. En la nacia vespero ni povis ĝui prezentaĵojn de profesiaj dancistoj kaj kantisroj.

Mi partoprenis en la du-taga postkongresa ekskurso al la malnova urbo Hue. En hoteo mi estis samcambrano kun s-ro Nguyen Van Ha, la sekretario de VEA kaj la cicerono de la ekskurso al Hue. Li malkaŝe klarigis al mi avntaĝon kaj mlavntĝon de Esperanto-movado en socialisma lando. En Vjetnamio ĉiuj kulturaj grupoj estis orgnizitaj de la supera orgnizo. VEA estas membro-organizo de VUAO (Vjetnama Unio de Amikecaj Organizoj) kaj estas regata de la supera orgnizo VUAO tiel, ke la agadoj konformu al la agad-principoj de VUAO. Se VEA agadus sendepende libere de la principoj kaj sen permeso de la supera orgnizo VUAO, la estraro de VEA estus tuj arestita. Se la agad-plano de VEA estas agnoskita de VUAO, tiam ĝi helpas VEA-n inkluzive de financa afero. Kiam VEA esprimis la deziron okazigi AOK-n, tio signifis, ke la plano de VEA estis jam permesita kaj agnoskita de VUAO antaŭ sin-anonco esti kongresa lando en la kunsido de KAOEM. Por tio LKK(VEA) devis cerbumi pri ĉio, ekzemple, kiel elekti la kongresan temon konforme al la agad-principoj de VUAO, t.e. la ŝtataj aŭtoritatoj. LKK devas prepari por persvadi la superan orgnizon kun skrupula atento. Se la aŭtoritatoj ne permesas, VEA povas neniom fari por okazigi AOK-n. Tio estas malavantaĝa flanko. Sed kiam VEA sukcesas akiri permeson de la aŭtoritatoj, ĝi povas atendi bonan financon helpon de la supera organizo, t.e. de la ŝtato. Tio estas la avntaĝa flanko. Ĉi-foje per la du akceptoj kun luksaj bankedoj, la enhavoriĉa nacia vespero en teatro kaj memoriga plantado de arboj en la

Junulara Parko, la Popola Komitato de Urbo Danang kaj VUAO deziris festi la ĉeeston de gvidantoj, gastoj kaj kongresanoj al urbo Danang, esprimis sian varman bonvenigon al kongresanoj, kaj sian specialan intereson por Esperanto. Avantaĝo kaj malavantĝo estas la du flankoj de medalo.

Se konsideri okzigon de internacia Esperanto-renkontiĝo en Japanio, kiom da financa helpo ni povos atendi de municipo k.a., kvankam ni havas plenan liberecon pri la okazigo kaj ĝia enhavo? Ni preskaŭ ne povas atendi financon helpon de la aŭtoritatoj krom moralaj aŭspicioj, sekve Internacia Esperanto-evento devas esti modesta laŭ nia financa povo en Japanio. (fino)

*YouTube にアジア大会および KS の記録動画がアップされています。"Azia-Oceania Kongreso de Esperanto", "la 37a Komuna Seminario"で検索してみてください。

Danke Ricevitaj (25ページより続く)

X26 頁のうち E.文は合計 5 頁。EPA 夏季合宿(札幌、8月23日~25日)の「お知らせ」が2か所に出ている。巻頭言は「お勧め! 大本青年部のウェブサイト/斉藤泰」。「第11回 EPA 関東エスペラント合宿(5月末、

東京)では参加者24人の半数以上が30代以下の若者だったとのこと。連載中の「エスペラント朗詠短歌通信添削/前田茂樹」は今号で31回目。

★阿部さんのこと
岩見沢市 渡辺晋道です。
お久しぶりです。
ヘロルドにて、阿部さんが亡くなられたことを知りました。
残念です。 合掌

ざるなきやを疑ふ、特に知らず、其太簡なるこそ即て尤も實用に當る所なるを。

一、余は白地に言へば研究は尙ほ淺く此語に於て通ぜざる所今尙ほ甚だ多し、故に剪裁の際知ず識らず誤謬に陥りたる點なきを保せず、唯巻末に收めたる字書の翻譯には英譯のをも參考したれど、尙に自ら信ずる所ありて、斷乎として新に譯語を下したるも少からず、例せば *feĉo* の一語の如き英辭には *sediment* とあり、*sediment* は如何なる字書を按するも、沈澱物といふの外別義なきが如しと雖原本には *drojji* とあり、*drojji* は酵母(*yeast*)なれば、沈澱物たるには相異なきも、之を *sediment* と譯しては十分に其意味を盡したりとすべからず、又 *ĉagreni* の如き英譯には *disappoint* とあり、無論失望さする義と解する外なかるべきも、原本には *prichinyat dosadoo* と釋きたり、不快を與ふ、懊惱せし

Oni ne scias, ke tia simpleco ja faciligas praktiki ĝin.

Honeste konfesante, mi estas ankoraŭ komencanto de tiu lingvo, do al mi ankoraŭ mankas bona kompreno. Tial mi timas, ke mi eraris okaze de bezonaj revizioj ĉe tradukado. Por prezenti vortaron metitan ĉe la finaj pagoj mi referencis ankaŭ al anglalingvaj dokumentoj. Sed troviĝas ne malmultaj ekzemploj pri kiuj mi aŭdacis doni novan difinon laŭ mia opinio, ekzemple "feĉo". Ĝia anglalingva traduko estas "sediment", kiu signifas "precipitaĵo" en ĉiuj vortaroj.

Sed en la originala libro estis "drojji", kiu signifas "feĉo, gisto, fermento (yeast)". Kvankam tio apartenas certe al precipitaĵo, tamen la vorto "sedimento" ne sufiĉe klarigas la vorton "feĉo".

Kaj pri "ĉagreni" anglalingva traduko montras "disappoint", do oni komprenas "senesperigo". Sed en originalo estis "prichinyat dosadoo", signifanta "malagrabligi, ĉagreni".

じの義なり、されば *ĉagreni* は英語の *chagrine* と同字同義なるを、何故に之を釋きて *disappoint* と爲せるものか、其意殆ど解すべからず。失望は懊惱の原因となることありとも、失望即懊惱とはいは、唯か其論の粗糲なるに驚かざらむ、此類尙ほあるべし。若し夫れ物名、殊に植物魚介の名稱に至りては英譯に負ふ所多きも、英語の國語譯には、尙ほ疑はしき點多し。幸に大方の指摘を採うるを得ば、他日再版の時訂正すべし。

三十九年七月

著者識

Do "ĉagreni" havas literumon kaj signifon samajn al anglalingva "chagrine". Mi ne komprenas, kial oni tradukis ĝin "disappoint". Kvankam "senesperigo" povas kaŭzi "ĉagreno"-n, sed surpriza estas tia fuŝa kompreno, ke "senesperigo" egalas al "ĉagreno".

Povas esti, ke troviĝas ankoraŭ tiaj eraroj. Kvankam mi prenis multajn nomojn (substantivojn), precipe de plantoj kaj fiŝoj el la angla lingvo, restas ankoraŭ dubinde, ĉu la traduko inter la japana kaj la angla estas ĝusta aŭ ne.

Se mi povos havi afablajn atentigojn de estimataj legantoj pri la enhavo, mi povos korekti ilin ĉe la venonta reeldono.

1906, julio

Skribis la verkinto.

Danke ricevitaĵoj (星田淳扱い一、読みたい方はご連絡ください)

* La Informilo de Nagoja Esperanto-Centro/センター通信 292 号、2018 年 5 月 26 日、名古屋エスペラントセンター発行、B5X28 頁のうちエスペラント文 8 頁半。"Esperantistaj Rilatoj inter remsanoj kaj nagoj-anoj" は名古屋の姉妹都市ランス(フランス)からのたより。「アジアオセアニア大会に参加して/勝はるみ」、「プラハのエスペ란ティストに会いました/片山浩子」は 2 言語(Esp., 日本語)使用。名古屋の名所紹介(2)は徳川園の紹介、Esp. 文。全体に写真が多い。ほかは活動紹介など。

* La Movado: 関西エスペラント連盟(KLEG)発行、N-ro 820 junio 2019、B5x16 頁のうち E. 文 4 頁。巻頭記事は「第 106 回日本エスペラント大会へ b のお誘い/石川智恵子」。Kajero Libervola は "Ĉu laŭvorta traduko estas akceptebla?/FUKUDA Makoto"。"自著を語る一小林多喜二「蟹工船」のあれこれ/島津泰子"。連載中の「源氏物語(対訳)/eljaanigis belmonto」は第 35 帖若菜下に入っている。「第 28 回国際合宿(韓国)に参加して/嶽本奈々」は 18 歳ではじめての国際行事参加記。

* NOVA VOJO : N-ro 562 junio 2019, EPA(エスペラント普及会)、A5 X26 頁のうち E. 文は合計 4 頁。「2019 年 年間行事予定」に「8 月 23 日(金)~25 日(日) EPA 夏季合宿(北海道・札幌市)」。

巻頭言「ネパールで青年の幾歳を!/木村且哉」、「カオダイ教代表者と共に大本分科会を開催/奥脇俊臣」は第 9 回アジアオセアニア Esp. 大会(4 月、ダナン)の報告。

* Novaĵoj Tamtamas; n-ro 349/ junio 2019, Internacia Gazeto de

Esperanto Jokohama(Hama-Rondo)/エスペラントよこはまのエスペラント文会報、A4X4 頁。巻頭記事は 4 月の第 9 回アジア大洋州 Esp. 大会(ベトナム)。Eseo 欄に "Iu forgesita esperantisto, Ootani Ma-Sakazu/Doi Ĉieko"。戦前の満州で Esp. の理想を求めて努力した満鉄-ano について。

* La Tamtamo; 第 521 号、2019 年 6 月号、NPO 法人エスペラントよこはま会報。A4X8 頁、日本文。トップ記事は「エスペラント入門講習会まだまだ募集中です」。受講生を多く集める努力、方法——Ja, urĝa demando! 「5 月のハマロンダ・ベスペーロ」は中国で日本語を教えた佐々木照央さんの報告。編集後記に図書館で借りた絵本「くろうまブランキー」(伊東三郎祭話)」のこと。

* Sferilo 2019/6 月号 電子受信 米国サンフランシスコ周辺の Esp. 組織(SFERO)の機関誌(6 月号)。6 月 1 日の月例会予告(ゴールデンゲート公園の日本庭園散策の予定も)と先月の例会の報告。NASK(北米夏季講座)は月末~7 が宇上旬、来たカリフォルニア州にて。

* ESKALO: 川崎エスペラント会機関誌 No.173(2019 年第 2 号、2019/6/26 発行)。B5X8 頁のうち E 文は合計 1 頁弱。トップ記事は「第 9 回アジア・オセアニア Esp. 大会(4 月末)、3 頁にわたり写真 7 枚入り。「水曜日例会報告/三輪博昭」は今読んでいる Kredu min, sinjorino! の説明。Informoj 欄には外部行事(インターナショナルフェスティバル、ごえん楽市、グローバルフェスタ 2019)への参加報告。

* NOVA VOJO : N-ro 563 julio 2019, EPA(エスペラント普及会)、A5

Protokolo de la 5-a Komitato Kunsido de HEL/Kasjaro 2019

2019 年度 第 5 回委員会 議事録

日時：2019 年 5 月 26 日（日） 10:00～11:40

場所：札幌エルプラザ 2 階 会議コーナー（12 名用）

出席者：横山（司会）、後藤（純）、後藤（義）、山下、星田、宮沢、立木（記録）

【組織】

正会員 28、購読会員 5、青年会員 2、家族会員 1。

阿部映子さんのご逝去により、会員数は 36 人。

【財政】

機関誌の送付に利用していたヤマト運輸のサービスの料金が 2 倍になるという報告があった。代替策を講じなければならない。

【広報】

- ・HP アクセス数：592,525 件（2 ヶ月前比+165）

- ・メールマガジンにて初夏合宿の宣伝をする。

【情報・宣伝】

- ・初夏合宿の開催お知らせビラ：6 月 29 日（土）・30 日（日）の初夏合宿開催に向け、ビラを 300 枚印刷。機関誌に同封。ほか、エルプラザに 30 枚、札幌駅前通地下広場[チカホ]に 30 枚、北海道立道民活動センター[かでる 2.7]に 30 枚、置かせてもらう。また、100 枚を北大祭でエスペラント研究会に頒布してもらう予定であったが、委員会後、エス研が今年度の北大祭出店資格の抽選に落ちてしまっていたことが判明。（そのかわり大学構内にビラを掲示していただいた。）北海道新聞および「どうしん生活情報版さっぽろ 10 区（トーク）」に掲載を依頼。

【教育・研究】

- ・札幌 E 会（後藤（純））：変わりなく、“De Patagonio ĝis Alasko” の講読。入門が終わり、初級講習。その後、会話練習。

- ・苫小牧 E 会（星田）：事実上、お休みの状態。入門講習に参加なし。

- ・横山・宮沢両委員の勉強会は変わらず継続中（毎週、宮沢委員宅にて）

【機関誌】

- ・5月26日、「Heroldo de HEL」n-ro183を90部発行した。全20ページ（星田）。
- ・機関誌発行について星田委員に負担が集中している問題について

一つの案として、関西エスペラント連盟(KLEG)の機関誌“La Movado”に北海道の記事も入れてもらう形で継続するというものがある。KLEGとの交渉を担当している宮沢委員の報告によれば、交渉自体が難航しているようだ。また、もし仮に交渉が成功し、来年6月のKLEGの総会で“La Movado”に入れてもらえることになると仮定しても、年間の会費を現在のHELの会費より1500～2000円ほど値上げしなければならなくなる可能性が高く、そのうえ当然ながら、北海道の記事は“Heroldo”に比べ大幅にボリューム・ダウンするからである。（その代わり、“Heroldo”は隔月発行だが、“La Movado”なら毎月発行される。）報告を受け、当委員会では「ひと目みて北海道のエス活動が分かるようにしてほしい」という要望のほか、地方版を半年ないし年に一回刷り”La Movado”に同封するのはどうかという案も出た。いずれにしても、11月の総会で会員の皆さまに對し、この機関誌存続問題をまずは知っていただく機会を設けなければならない。

★重要★委員会終了後、横山委員長と立本事務局長で話し合い、上記の“La Movado”合流案」のほかに、HEL事務局長が機関誌編集を引き継ぐ案を提出した。⇒今号に掲載。

(?) → はさみ込みます

【年間計画】

- ・初夏合宿:6/29(土)12:20-受付開始、13:00-13:15 クラス分け、移動。6/30(日)9:00-9:45 一時間目（入門：後藤（純）、初級：横山、中級：星田、会計：山下）
- ・北海道大会：日程の確認と、公開講演会の演題の提案。

11/2(土)午後：HEL総会（かでの2.7）。

11/4(月・振休)午前：JEI学力検定試験、午後：公開講演会（いずれも、かでの2.7）。

☆公開講演会⇒講師：ミカエロ・ブロンシュテイン氏

演題案：ロシアとウクライナの関係

【社会活動】

- ・11/5(火)に、来道したミカエロ・ブロンシュテイン氏を連れて、二風谷アイヌの萱野志朗さんらとの交流を予定している。

【次回委員会】

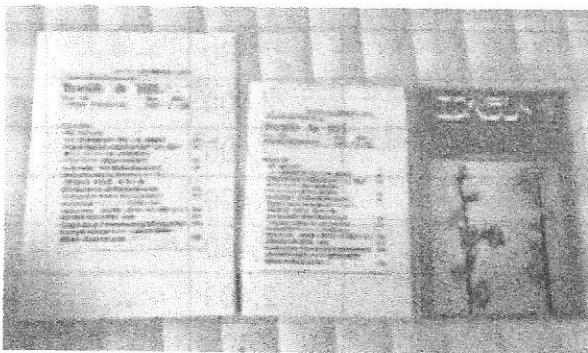
- ・2019年7月14日（日）10:00より、札幌エルプラザ2階会議コーナーにて。同日午後から機関誌の印刷を行う。

“Heroldo de HEL” 編集作業の引継ぎ案

(事務局長 立木ちはや)

HEL 機関誌 “Heroldo de HEL” は、その編集作業が星田委員に集中している。このままでは発行継続が困難である。これはかねてから度々浮上する問題だったが、議論が決着せず、星田委員への負担もそのままになっていた。この問題に対し、「関西エスベラント連盟 (KLEG) の機関誌 “La Movado” へ編入させてもらってはどうか？」という提案があった。この案については、具体的に、宮沢委員が KLEG との交渉にあたっている。しかし、状況の厳しさは、今号掲載の第 5 回委員会議事録 — 「機関誌」 欄にあるとおりである。

そこで、立木と横山委員の 2 人体制で編集作業を引き継ぐことを提案する。そうすれば、北海道のエス活動にフォーカスした、今までとほぼ同様の誌面を保ち、かつ、会費の大幅な値上げもしなくて済む。ただし、引継ぎの条件がいくつかあり、詳しくは次ページに掲載した「“Heroldo de HEL” 編集の引継ぎについて」を読まれたい（これは横山委員が作成し、委員会 ML に流した提案書に少し注釈をつけたもの）。「引継ぎについて」にあるとおり、重要な条件として「A サイズでの編集」がある。もしこの編集引継ぎ案の運用が始まれば、機関誌は、下の写真[真ん中]のような見た目になることとなる。



写真左：今までのサイズ(B5 冊子)/中：新サイズ (A5 冊子) /右：JEI 機関誌“La Revue Orienta”。新サイズは、旧サイズよりひとまわり小さいが、JEI 機関誌と同じサイズだ。

(私見だが、小冊子としても最もポピュラーなサイズだろうと思う。)

また、重さについて、左：今までの B5 冊子 20p で 32g/中：新サイズ A5 冊子-ホチキ

ス有 32p で 33.4g、A5 封筒(角 6)に入れて 40g であるから、いずれにせよ 50g 以内で、郵便物としての規格・条件は今までと変わらない。そのため、もし、現在利用しているヤマト運輸のサービス (1 通あたり 82 円から 164 円に値上げする) の利用をやめ、郵便局のサービス ([規格内]定型外郵便 50g まで 120 円) に乗り換えれば、値上げの打撃を少しだけ(1 通あたり約 40 円)抑えることができそうだ。

ところで、もしこの引継ぎ案が受け入れられ、じっさいに運用を始めたとしても、立木や横山委員が編集作業から外れることになるかもしれない。そのときのために、できるだけ編集作業自体を簡易なものにしておき、次の引継ぎに備える。たとえば、Word (Microsoft Office の文書編集ソフト) を扱えば誰でも編集作業に当たれるようなマニュアルを作成しておくべきと考え、計画 중이다。

以前より星田淳委員から、機関紙を編集する作業を他の人間に引き継ぎたい旨の強い要望があったので、横山裕之と立木ちはや事務局長が検討した結果、以下のような提案をしたいと思っています。宜しくお願い致します。

1. 立木ちはや事務局長が編集長となり、横山裕之がサポートする体制で機関誌を編集する。
2. 現在の B4 二枚折で印刷用原紙をつくるのはやめ、A4 二枚折で原紙をつくることにする。(これについては、両氏とも使い慣れている A サイズの編集でないと編集が煩雑となるため、B サイズでの編集はお断りしたい。また B サイズでは自宅のプリンタで印刷できない。この A サイズで編集する条件は、両氏が編集を引き受ける際の絶対条件とする。)
3. 原則、メールで投稿原稿を授受することにするが、どうしてもメールでは授受できないものについては、郵送で立木事務局長へ原稿を送ることにする。その際にそれらはスキャナーで取り込んで図形ファイルにして、Word で編集する際に貼り付けることにする。
4. Word で編集したものは PDF にも変換して電子機関紙も作る。PDF 関連の作業は横山を中心に行う。
5. 新たに、紙媒体は受けとらず電子媒体で機関紙を受け取る電子会員を規約に設け、電子会員に対しては、電子版機関誌である PDF ファイルをメールで送る。また、新たに電子会員の会費も設ける。(電子会員の会費は、正会員から機関紙の年間郵送料や印刷代を引いた 2 千円程度が妥当と考える。)(※)
6. 従前から、HEL のホームページに掲載していた PDF 化した機関紙については、電子会員を設けた後は、発行から 1 年経ってから公開することにする。
7. 機関紙の大きさが小さくなったため、ページの上限については 30 ページ程度とし、機関紙のページ数は、投稿された原稿の量に応じて変動する運用にする。原稿が集まらないときは、連絡事項だけの機関紙になる場合もある。その場合は、会員に寄稿を促すコメントを機関誌に入れる。

(※) 紙の機関誌はなしで、電子ファイルだけを送ってもらう電子会員については、現在、郵送料が倍に値上がりした 1 回 162 円として、1 年間に 6 回送ると、972 円、それに印刷代プラス用紙代なので、正会員費 3 千円から千円を引いて、2 千円を会費としました。購読会員の 2 千円というのもあるので、そんなに変な感じでもないと思います。電子会員を設けたら、少なくとも私(横山)は電子会員になるつもりです。

[編集後記/Redaktanto parolas]

* 沢谷雄一さんから寄せられた 9AOK(第9回アジア・オセアニア・エスペラント大会、4月)の参加報告(12頁)が入りました。およみください。

* 23頁からの対訳は前号からの二葉亭四迷の「世界語」の序文の続きです。

* 以上、長文の報告、初夏合宿の報告、前号からの続きなどで、この号はいつもの「最大20頁」の線を大きく超えてしまいました。多くの原稿、ありがとうございます! はいいいのですが……

* ”Heroldo de HEL” 編集作業の引継ぎ案(事務局長 立木ちはや)
→ はさみ込みます

*-----

北海道エスペラント連盟 会費/年

正会員 3000 円、 青年会員(26 歳未満) 1500 円、

購読会員 2000 円、家族会員、失業者など割引 1000 円

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO	北海道エスペラント連盟
* Redaktas la Organa Fakto de HEL	* 編集: 連盟機関誌担当
ĉe HOŜIDA Acuŝi	053-0844 苫小牧市
Miyanomori 2-18-18, TOMAKOMAI	宮の森町 2-18-18
053-0844 JAPANIO	星田 淳 方
TEL-FAKS: 0144-74-2539	Retadreso: hosidaacusi@kir.biglobe.ne.jp
* Sekretario:	* 事務局: 立木ちはや
N-ro 100, Simin-Katudô-Sapôto-Sentâ	060-0808 札幌市北区北 8 条
Sapporo L-Plaza 2F, Kita 8 Nisi 3,	西 3 丁目 札幌エルプラザ
Kita-ku, Sapporo, 060-0808 Japanio	市民活動 サポートセンターレターケース 100
TEL: 011-717-4189 (宮沢)	
Retadreso: belaj.akaroj@gmail.com (立木)	
* TTT-ejo: http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/index/index-j.htm	
* Poŝtĝirkonto(郵便振替): 02700-6-17075	